

2021.12.4 富山県成長戦略ビジョンセッション（舟橋村）発言要旨

【知事からの説明】

新田知事より 資料（別添）により富山県成長戦略会議「中間とりまとめ」について説明

【グループ発表①～③】

①民間のコミュニティバスがあつたらいいなとか病院が欲しい。小児科とか内科も含めて。学童とか公園とか子どもが遊ぶ場所がもっと欲しい。それに対してのアイディアは県からの助成や民間の人材を募集するという。他にはイベントとかオンラインで村の人たちが繋がる場所を用意してほしい。村から離れてしまったら情報がまったく届かなくなってしまうので、手に入れる方法を用意して欲しい。何も無い公園を作って欲しい。イベントの具体案は縁結びイベントをやればいいのかではないかなと。村役場のオープン化は住民の定期的な座談会を実施すればいいのではないかと思います。コミュニティバスの運転手を村の中で募集したり。黒部のパッシブタウンの事例とか空き家を活用したり、今日みたいな場があれば多世代間の交流ができる。役場に対して距離があるよねと思うので、住民の意見も伝えられるのではないかと思います。

知事：課題をだしてそれにソリューションを出してくれるのはこれまでになかったですね。ありがとうございます。単にあれがほしいというだけでなく自分たちなりのソリューションを考えていただく、とてもありがたいことだと思います。コミュニティバスもあればいいと思います。例えば朝日町が頑張っています。ノッカルといってラストワンマイルをなんとか繋ごうという交通システムを作っています。まさに時間がある人が運転をして動きたい人をサポートしよう。ただそれでは繋がらないのでちゃんとITでサポートして、そんなシステムがあります。もしよかつたらいくらでも紹介しますので舟橋村なりのラストワンマイルのモビリティの保障をどうやってやるのか。これからの課題ですしみんなで解決できることだと思います。

②村の方と関わりをもっともっと持ちたいと考えて、そのためには他人を否定するのではなく肯定的にとらえて認め合える世界が醸成できたらいいなと。子どもに関する幸せ。保育士に関する事で、待遇面とか収入減とかいろいろあると思いますが、保育士に全ての責任を負わせるのではなく、通っていらっしゃるお子さんが生き生きと育つような場所があればいいなと。子どもの居場所、児童館の拡充もさることながら、図書館の休日があまりにも多すぎる。近隣の自治体と比較するのはあまりよろしくないかもしれませんが比較したとしても舟橋村はダントツで休みが多すぎます。ぜひとも改善をしていただきたい。あとひとつは高齢の方で移動手段がない方もいらっしゃるの、ぜひ移動図書館をしていただきたい。

知事：子どものウェルビーイングもとても大切ですね。将来市民、子どもたちのウェルビーイングを上げていく。子ども真ん中で考えようということも県議会でも言われます。政府では子ども庁ということも議論されています。岸田総理はしっかりこども庁をやろうというお話しでした。富山県でも見習っていきたいと思います。最後のお年寄りが動き辛いなら図書館が動こうという逆転の発想、他にもいろいろ応用ができるのではないかと思います。

③多世代居住者の税制優遇をしてほしいなと思います。2-3世帯で住んでおられる方は公助に頼らなくて済む要素が多くなると思っていますので、そういう方々になんらかのメリットをあげたらいいのかなと思います。

駅を中心に玄関前まで歩行者道路を行き来する自動運転の実装。技術的にも可能ですし観光するにしても積極的にそこを選ぶ理由にもなるし、免許を手放した後の対策にもなるし大切だと思います。

多世代が集まるコミュニティを作りたい。核家族化が進む中でお年寄りの役割もあると思うし、中高年も若い世代になにか伝える場があったらいいなと思いました。免許を返納したくなるようなシニアカーの貸出サービスがあれば、コミュニティにも繋がると思うし、自分の意思で自分の行きたいときに行きたい場所へいけるといいうか、のんびりと出掛けられるようにしたいです。

小さな村でICTを活用していく子育て。健康村ということでスポーツ教育を提案させていただきました。

知事：多世代居住者の税制、確かに県庁でも実質増えているのが医療福祉、ヘルスケアなんですね。いつも枕詞のように高齢化で社会福祉費用が残念なことがありますが、でもそうやって自助公助互助、そんなことが家庭の中で行われて行くとしたらコストダウンになりますよね。とても良いアイデアだと思います。多世代居住に限らず、みんながピンピンコロリの直前まで働いておられる。こんなことを実現できれば本当にヘルスケアのコストがどんどん減って行って収入が増えていく可能性があるんですね。そんな可能性を是非追求していきたいと思います。その基本が世代居住なんだというふうに聞いておりました。

家から駅までの自動運転、単純な往復の自動運転やりやすい話だと思うのでとにかく駅まで繋ぐと。そしたらその先の世界がまた広がると思いますからとてもいいアイデアです。

さっき言った朝日町のノッカルのような、まだ元気な人が乗せてあげてをネットワークにするアプローチもあると思います。ICTを大いに活用する。これはもう全ての自治体でのテーマです。是非専門ののとさん！どうでしょうか今富山県でもデジタル補佐官を民間人にお願いしています。県庁の人と一緒に働いてもらっています。どうか舟橋村のために一肌脱いでいただいて舟橋村のIT補佐官をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【振り返り】

参加者：喋っていてわかったのがみんな年齢は違うんですが似たようなことを考えて暮らしているらっしゃるなということで、自分はこの中で一番若い人間だと思うんですがしゃべっていて皆さんのエネルギーがすごくてやばいな負けそうだなと思っていたので若者も負けていけないなと思いました。

参加者：住民のやる気を盛り上げるという意味ではすごくいい感じの場だったのではないかなと思います。

参加者： 最年少と最高齢と同じチームだったのですが普段なかなか会うことのないお話しすることのない世代の方々と話せてすごく嬉しかった。 こういう場があるといいなと思いました。

参加者： こういうふうな場で発言を強制的に求められるのは小学校の夏休みの国語の読書感想文以来。そもそも読書感想文は作家が求めているものを書かせるんですね。学校の先生がこの本を読んでお前どう思ったと。そんなこと俺に聞くなと言いたいんですけども。今日は言いたいことも言えたし面白い集いだったと思うんですね。なかなかいい企画だったと思います。ですから是非今後も続けていただきたいなと私は思っております。

参加者： 今日はありがとうございました。自分は舟橋で生まれ育って二十歳過ぎで一回富山市を出て2020年に舟橋が大好きだったので戻ってきたんです。だからこそこの村が本当にちょっとでも良くなればいいなと常日頃思いますし、よくなる事ってどういうことなんだろうと自分の中でもよく考えています。日本一小さな村ってすごいキャッチフレーズとしてパンチはあるのですが、日本一小さな村だからもっとできることがあると思っていて、もっと今日は本当に尖った奇抜なアイデアをもっと言えたんだろうなとちょっと後悔しています。こういった機会があればもっと他に見ないアイディアを出してこの舟橋村を盛り上げていく一助になればなと改めて強く感じました。

知事： 松田さんどうも。 最初の自己紹介でなかなか手強い方かなと実はマークをしていたのですが、最後の振り返りでとても良い会だったと言っていただけで。まさに集いなんですね。実はホッとしています。やっぱり言いたいことを言えた、これってやっぱり嬉しいですよ。私よく知事大変ですね疲れるでしょうスピーチがたくさんあってと言われるのですが実は全然大丈夫なんです。喋るほど楽しいことはなくてですね。むしろ私のストレス発散に多くの方を巻き込んでいると言う大変申し訳ないことなんです。それはさておき、言いたいことを喋れる場づくり。今日は県でやりましたけれども是非舟橋村、コンパクトな村なのだから集まれと言って集まった人でワイワイとやっちはいかがでしょうか。小ささは強さだと思います。

参加者： 先程グループで同じことを感じていたなとか発表で知事さんがコメントをくださっていてすごく身近で県政を直接携わっている人たちが、私たちの意見に耳を傾けてくれることはすごいことだなと思っています。これまではそんなこともなかったし、ちゃんと届いてもできることと、子育てもそうですけれども、してあげたいことと出来ることはちょっとごめんねという感じがあると思います。こうやって意見を聞いていただけること、そして他の方たちの意見も聞けたのがとても良かったと思います。今日ここに参加できてとても嬉しく思っています。

参加者： 普段家にいるとなかなかお会いしたりお話ししたりすることがない方々とうちやうて交流できていい機会だったなと思います。

参加者： 先ほど小さい村だからこそ大きな ことができるのではないかと良いアイディアだと思います。私奇想天外な発想を言いますけれども、舟橋村は富山市に近い。富山市のよう

な都市、富山副都心。そういった大きな目的アイデアですね。10年後20年後を見てそういうものを考えながら舟橋村を進めていく。うちのグループでもありましたけど、いろんなイベントでも舟橋だけじゃなくて県全体のイベントを舟橋に引っ張ってくる。そういう富山市副都心。そういう構想を知事をお願いできたら嬉しいなと思います。

参加者：今日こういう場に参加させていただきまして、いろんな世代の方とお話ししてまして若い世代が外から来て昔からおられる村民の方とどう接したらいいのかわからない状態を、昔からおられる方も悩んでおられたというのをわかったのと、これが県だけの話し合いだけじゃなくて村の役場の方とか議員さんもおられるのであれば、こういう集いの場を月に一回とか二か月に一回とかしていただけたら、いろんな意見の交換ができるのかなと思いました。

参加者：みなさんとても熱い想いがたくさんあってまだまだ話し足りないことがあったと感じました。またこういう機会があったらいいなと思いました。

参加者：いろんな年代、環境の方がいろんな意見を出されまして、まだまだ課題もたくさんあるんだなって思うのと、改善されていくことがいろいろあるんだろうなと楽しみに思いました。

参加者：先ほどお話がありました、小さな村。これを活かした村づくりというのが非常に大事だと感じました。私専門はICTとかコンピューター関係なのでそれをつかった子育てから教育を積極的に進めていただければ嬉しいなと思います。

参加者：今日すごく緊張して来たのですが、とても話しやすいグループだったということもあり、想いを共有できたということがすごく嬉しかったです。顔は合わせたことあるけど、こういう話はしたことないっていう方もいらっしゃったので、話が出来たことがまず嬉しかったです。あと個人的には縁結びの話を取り上げてくださったグループがあったのがすごくありがたかったです。またどのように繋がっていけば良いかとか、一緒に考えてくれると嬉しいです。

参加者：村の中でも高齢の方とか立場の違う方とお話しする機会がなかったり、県知事とか県の方とお話しするとかなかなかなくて。今日すごくよかったなと思うことは、要望を出す会じゃなくてアイデアを出しましょうと言ってくださったのがいい場だったなと思っていて。要求している限りたぶん与える人と与えられる人の上下関係なんですけど、対話になってるので一緒に作るというような機会になって、アイデアを出す場ということ自体がすごくよかったなと感じました。

参加者：せっかくたくさんの方がおられて、いろんな年代の方おられて。私は来月で69歳になるんですけども子育てをライフワークにしておりますので、若いお父さんお母さんたちの生の声を聞かせていただけるこういう場をまた集えたらいいなと思いました。